

## 小学生の喫煙行動・態度とセルフエスティームに関する研究

村松 常司 (健康科学選修) 鎌田 美千代 (愛知教育大学大学院)  
村松 園江 (東京水産大学) 金子 修己 (中部大学) 村松 成司 (千葉大学)  
川畑 徹朗 (神戸大学) 片岡 繁雄 (北海道教育大学旭川校)

### A Study on Smoking Behavior and Attitudes and Self-Esteem among Elementary School Children

Tsuneji MURAMATSU (Department of Health Science)  
Michiyo KAMADA (Aichi University of Education, Graduate School)  
Sonoe MURAMATSU (Tokyo University of Fisheries)  
Osami KANEKO (Chubu University)  
Shigeji MURAMATSU (Chiba University)  
Tetsuro KAWABATA (Kobe University)  
Shigeo KATAOKA (Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus)

#### I. はじめに

わが国では未成年者喫煙禁止法により20歳未満の者の喫煙は禁止されているが、現実には多くの青少年が喫煙していることは事実である<sup>1)~3)</sup>。喫煙習慣は容易に形成され、一度身につくと断ち難いことや喫煙開始年齢が早いほど健康への影響が大きいこと<sup>4)</sup>から、青少年に対してタバコを吸い始めないように働きかけるいわゆる喫煙防止教育は極めて重要である。

セルフエスティーム<sup>5)</sup>は自尊心、自尊感情、自己評価などと訳され、人のとる行動はこのセルフエスティームの影響を強く受けている<sup>6),7)</sup>。学校教育の場面では低いセルフエスティームの発現とみられる行動、例えば攻撃性、反社会行動、抑うつ、学業不振、非社会行動など<sup>8)</sup>が数多く認められている。植田<sup>9)</sup>は高校生を対象として、思春期におけるセルフエスティームと喫煙・飲酒・薬物使用との関連を追究し、セルフエスティームは思春期男子の喫煙ならびに将来の喫煙意思に関連する要因の一つであると指摘している。また、川畑ら<sup>10)~12)</sup>は小・中学生の喫煙経験者は未経験者に比べて、「学習」と「全般」の領域におけるセルフエスティーム得点が低く、また、ライフスキルと生活習慣の関係を縦断的に追跡した研究では、健康的な生活習慣を実践している青少年のセルフエスティームは実践していない青少年よりも全般的に高いと報告している。このように生活習慣にはセルフエスティームが大きく関与していることが予想される。

本研究は、青少年のライフスタイル改善に向けてセルフエスティームと生活習慣との関係を明らかにすることを目的として行った。本論文においては小学生のセルフエスティームと喫煙に関する行動・態度との関

連を追究した。

#### II. 調査方法

##### 1. 調査対象

調査対象は愛知県下の小学校4校、長野県下の小学校1校の5~6年生1037名である。対象者の性別、学年別の人数は表1に示す。

##### 2. 調査時期

調査は平成10年9月30日~平成10年11月2日にかけて各小学校において実施した。

表1. 対象者の学年別・性別人数

	5年生	6年生	合計
	N (%)	N (%)	N (%)
男子	262(48.6)	277(51.4)	539(100.0)
女子	239(48.0)	259(52.0)	498(100.0)
合計	501(48.3)	536(51.7)	1037(100.0)

##### 3. 調査方法

調査は無記名自己記入法とし、クラス担任に調査票の配布、回収を依頼した。回答した内容についての秘密保持のために、記入後の調査票は同時に配布した封筒に入れさせ封をさせた。調査票を記入している間はクラス担任が机間巡視をしないように求めた。

##### 4. 調査内容

調査内容は以下の項目である。

##### (1) 喫煙に関する行動

1) 喫煙経験, 2) 一ヶ月間の喫煙状況, 3) 禁煙

圧力行動①, ②, 4) たばこ煙からの回避行動

(2) 喫煙に関する態度

- 1) 将来の喫煙意思, 2) 喫煙者に対するイメージ,
- 3) 受動喫煙に対する反応, 4) 喫煙の勧誘の断り

(3) 喫煙に関する環境

- 1) 父親の喫煙習慣, 2) 母親の喫煙習慣, 3) 兄の喫煙習慣, 4) 姉の喫煙習慣, 5) 親しい友達の喫煙習慣

(4) セルフエスティーム尺度

- 1) 全般, 2) 学習, 3) 友人, 4) 運動, 5) 身体, 6) 家族

## 5. 分析方法

(1) 喫煙に関する行動と態度

喫煙に関する行動や態度を総合的に判断するために, 1) 喫煙経験, 2) 一ヶ月間の喫煙状況, 3) 禁煙圧力行動①, 4) 禁煙圧力行動②, 5) たばこ煙からの回避行動, 6) 将来の喫煙意思, 7) 喫煙者に対するイメージ, 8) 受動喫煙に対する反応, 9) 喫煙の勧誘の断りの9項目をとりあげ, 以下に示す好ましい状況であれば1点, そうでなければ0点とし, 9項目の合計を非喫煙得点とした(0~9点)。従って, 得点が高いほど喫煙に関する行動・態度が好ましい状況と言える。

1) 喫煙経験: 今までにたばこを一口も吸ったことがない。

2) 一ヶ月間の喫煙状況: この一ヶ月間喫煙をしていない。

3) 禁煙圧力行動①: 身体に悪いからやめると言ったことがある。

4) 禁煙圧力行動②: 不快だからやめると言ったことがある。

5) たばこ煙回避行動: たばこを吸っている人が隣りに来た時他の場所へ移る。

6) 将来の喫煙意思: 20歳の時喫煙していない。

7) 喫煙者に対するイメージ: 喫煙者は格好悪い。

8) 受動喫煙に対する反応: 受動喫煙は感じ悪い。

9) 喫煙の勧誘に対する態度: 友達がたばこを勧められたら断れる。

(2) セルフエスティーム

セルフエスティームの測定には, 「全般」「学習」「友人」「運動」「身体」「家族」の6つの尺度を用いた。

1) 「全般」の尺度

「全般」の測定にはRosenberg<sup>13)</sup>のセルフエスティーム尺度日本語版10項目<sup>14)</sup>を使用した。採点は4点のLikert型尺度として行い, 最もセルフエスティームが高い場合は40点, 最も低い場合10点となる。

2) 「学習」「友人」「運動」の尺度

「学習」「友人」「運動」の測定には Harter の認知されたコンピテンス (自己有能感) 測定尺度の日本語

版<sup>15)</sup>を用いた。Harter の尺度は元来「学習」「友人」「運動」「全般」の4つからなり, それらはそれぞれ7つの質問項目(合計28項目)から構成されているが, 本研究では「全般」の測定にRosenberg<sup>14)</sup>の尺度を用いたので, Harter の尺度から「全般」を除いた「学習」「友人」「運動」の3つの下位尺度合計21項目を使用して, それぞれに対する認知されたコンピテンス尺度を測定した。回答形式は4段階評定で行い, コンピテンスを最も高く認知している反応とみられる回答を4点, 最も低く認知している反応の回答を1点とし, 「学習」「友人」「運動」の尺度ごとに合計得点(7~28点)を求めた。

「学習」<sup>16)</sup>は学業をうまくやっけていける認知能力(コンピテンス)であり, 勉強が良くできる, 頭がきれる, 教室での仕事を楽しく感じている子どもはセルフエスティームが高い。「友人」<sup>16)</sup>は仲間と一緒にやっけていける社会的能力(コンピテンス)であり, たくさんの友達がいる, 好きになりやすい, クラスの中の重要なメンバーになると感じている子どもはセルフエスティームが高い。「運動」<sup>16)</sup>はスポーツやアウトドアのゲームに焦点を当てた身体的な能力(コンピテンス)であり, 運動が良くできる, 新しいアウトドアのゲームを容易く身につけることができる, 単に他の人の運動を見ているよりも運動することを好むと感じている子どもはセルフエスティームが高い。

3) 「身体」と「家族」の尺度

「身体」と「家族」の測定にはPopeの尺度法の日本語版20項目(各下位尺度10項目)<sup>17)</sup>を用いた。採点は3点のLikert型尺度として行い, それぞれ最も高く認知している反応の回答を3点, 最も低く認知している反応の回答を1点と得点化し, 「身体」と「家族」の合計点(10~30点)を求めた。

「身体」<sup>18)</sup>のセルフエスティームは自分の体の見ばえや動きに満足しているかどうかに基づき, 「家族」<sup>18)</sup>でのセルフエスティームは家族の一員としての自分についての感情を表している。自分が家族の中で価値あるメンバーであると感じている子ども, 自分が独自の貢献をしていると感じている子ども, そして親や同胞から愛と尊敬を受けていると感じている子どもはこの領域で高いセルフエスティームを持つ。

## 6. 比較方法

データ処理に当たっては名古屋大学大型計算機センター FACOM M-382を使用し, 演算にはSPSS第9版を用いた。各質問項目の回答の割合の比較には $\chi^2$ 検定を, 2群間の平均値の差の検定にはt検定を, 多群間の平均値の差の検定には一元分散分析を行い, Tukey-bの検定(有意水準は5%)を使用した。

表2. 喫煙に関する好ましい行動・態度の性別比較

好ましい行動・態度		男子	女子	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	喫煙経験がない	455(84.4)	460(92.4)**	915(88.2)
	1ヶ月間喫煙していない	519(96.3)	493(99.0)**	1012(97.6)
	身体に悪いからやめると言った	199(36.9)	224(45.0)**	423(40.8)
	不快だからやめると言った	117(21.7)	117(23.5)	234(22.6)
	隣りに来ると場所を移る	268(49.7)	282(56.6)*	550(53.0)
態度	20歳の時喫煙していない	208(38.6)	251(50.4)**	459(44.3)
	喫煙者は格好悪い	192(35.6)	229(46.0)**	421(40.6)
	受動喫煙は感じ悪い	380(70.5)	409(82.1)**	789(76.1)
	喫煙の勧めを断れる	362(67.2)	369(74.1)*	731(70.5)
対象者の人数		539(100.0)	498(100.0)	1037(100.0)

\*\* : P&lt;0.01, \* : P&lt;0.05, df=1

### III. 調査結果

#### 1. 喫煙に関する行動と態度の性別比較

##### (1) 喫煙に関する行動

表2に示すように、喫煙未経験者は全体では88.2%あった。性別では男子84.4%、女子92.4%であり、女子の方に喫煙未経験者が有意に多かった。「この一ヶ月間喫煙していない」は全体97.6%、男子96.3%、女子99.0%であり、女子の方が有意に高かった。また、表にはないが、喫煙経験者の「一ヶ月間喫煙していない」は全体80.8%、男子76.8%、女子89.5%であり、性別に差はなかった。「身体に悪いからやめると言ったことがある」は全体40.8%、男子36.9%、女子45.0%であり、女子の方が有意に高かった。また、「不快だからやめると言ったことがある」は全体22.6%、男子21.7%、女子23.5%であり、性別に差はみられなかった。たばこを吸っている人が隣りに来たとき「他の場所へ移る」は全体で53.0%、男子49.7%、女子56.6%であり、女子の方が有意に高かった。

##### (2) 喫煙に関する態度

表2に示すように、「20歳の時喫煙していない」は全体で44.3%、男子38.6%、女子50.4%となり、女子の方が有意に高かった。喫煙者に対するイメージでは、格好悪いが全体40.6%、男子35.6%、女子46.0%であり、女子の方が有意に高かった。

受動喫煙を「感じ悪い」とする者は全体で76.1%、男子70.5%、女子82.1%であり、女子の方が有意に高かった。また、「友達からの喫煙の勧めを断れる」は全体70.5%、男子67.2%、女子74.1%であり、女子の方が有意に高かった。

#### 2. 喫煙に関する行動・態度・環境の喫煙経験別比較

男子では表3に示すように、喫煙に関する行動にお

いて有意差がみられたものは「たばこを吸っている人が隣りに来たとき他の場所へ移る」の項目であり、喫煙未経験者の方が高かった。

喫煙に関する態度に有意差がみられたものは「20歳の時喫煙していない」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」の3項目で、いずれも喫煙未経験者の方が有意に高かった。

喫煙環境すなわち周囲の人間の喫煙状況において有意差がみられたのは父親、母親、兄、親しい友達の4項目であり、いずれも喫煙未経験者の方が周囲の人間が喫煙しない割合が高かった。

女子では表4に示すように、喫煙に関する行動においては喫煙経験の有無による違いはみられなかった。喫煙に関する態度に有意差がみられたものは「20歳の時喫煙していない」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」の3項目でいずれも喫煙未経験者の方が高かった。

喫煙環境において有意差がみられたのは母親、姉、親しい友達の3項目であり、いずれも喫煙未経験者の方が周囲の人間が喫煙しない割合が有意に高かった。

#### 3. セルフエスティーム得点の性別比較

表5に示すように、「全般」「友人」「運動」「身体」の4尺度で性別に有意差が認められ、いずれも男子のセルフエスティームが高かった。

#### 4. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティーム得点

男子では表6に示すように、最も多くのセルフエスティーム尺度で有意差がみられたのは「たばこを吸っている人が隣りに来ると場所を移る」と態度の「喫煙の勧誘を断れる」の2項目であり、ともに「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度において、好ましい状況

表3. 喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の喫煙経験別比較 (男子)

好ましい行動・態度・環境		未経験者	経験者	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	身体に悪いからやめてと言った	170( 37.4)	29( 34.9)	199( 37.0)
	不快だからやめてと言った	96( 21.1)	21( 25.3)	117( 21.7)
	隣りに来ると場所を移る	235( 51.6)*	33( 39.8)	268( 49.8)
態度	20歳の時喫煙していない	188( 41.3)**	20( 24.1)	208( 38.7)
	喫煙者は格好悪い	167( 36.7)	25( 30.1)	192( 35.7)
	受動喫煙は感じ悪い	336( 73.8)**	44( 53.0)	380( 70.6)
	喫煙の勧めを断れる	319( 70.1)**	42( 50.6)	361( 67.1)
環境	喫煙する父はいない	217( 47.7)**	23( 27.7)	240( 44.6)
	喫煙する母はいない	404( 88.8)**	60( 72.3)	464( 86.2)
	喫煙する兄はいない	436( 95.8)**	70( 84.3)	506( 94.1)
	喫煙する姉はいない	450( 98.9)	79( 95.2)	529( 98.3)
	喫煙する友達はいない	444( 97.6)**	68( 81.9)	512( 95.2)
対象者の人数		455(100.0)	83(100.0)	538(100.0)

\*\* : P<0.01, \* : P<0.05, df=1

表4. 喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の喫煙経験別比較 (女子)

好ましい行動・態度・環境		未経験者	経験者	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	身体に悪いからやめてと言った	209( 45.4)	15( 39.5)	224( 45.0)
	不快だからやめてと言った	109( 23.7)	8( 21.1)	117( 23.5)
	隣りに来ると場所を移る	265( 57.6)	17( 44.7)	282( 56.6)
態度	20歳の時喫煙していない	238( 51.7)*	13( 34.2)	251( 50.4)
	喫煙者は格好悪い	216( 47.0)	13( 34.2)	229( 46.0)
	受動喫煙は感じ悪い	383( 83.3)*	26( 68.4)	409( 82.1)
	喫煙の勧めを断れる	349( 75.9)**	20( 52.6)	369( 74.1)
環境	喫煙する父はいない	219( 47.6)	14( 36.8)	233( 46.8)
	喫煙する母はいない	417( 90.7)**	28( 73.7)	445( 89.4)
	喫煙する兄はいない	448( 97.4)	36( 94.7)	484( 97.2)
	喫煙する姉はいない	457( 99.3)**	35( 92.1)	492( 98.8)
	喫煙する友達はいない	450( 97.8)**	33( 86.8)	483( 97.0)
対象者の人数		460(100.0)	38(100.0)	498(100.0)

\*\* : P<0.01, \* : P<0.05, df=1

表5. 尺度別にみたセルフエスティーム得点の平均値と標準偏差

	男子	女子	全体	男女の比較
全般	28.2(5.0)	27.0(5.1)	27.7(5.1)	P<0.01
友人	19.6(3.7)	18.9(3.7)	19.3(3.7)	P<0.01
学習	16.8(4.3)	16.6(3.9)	16.7(4.1)	N.S.
家族	24.0(3.6)	24.0(3.9)	24.0(3.7)	N.S.
運動	17.3(4.8)	15.3(4.9)	16.3(4.9)	P<0.01
身体	20.0(3.3)	18.4(3.6)	19.3(3.5)	P<0.01
例数	539	498	1037	—

の者のセルフエスティームが高いことが認められた。次いで、多いのは「身体に悪いからやめると言ったことがある」「20歳の時喫煙していない」の2項目であり、それぞれ3つの尺度で有意差が認められ、いずれも好ましい状況である者のセルフエスティーム得点が高かった。

また、尺度別にみたとき最も多く有意差がみられたのは「学習」であり、「喫煙する父はいない」「喫煙する姉はいない」「喫煙する友達はいない」の3項目を除いた11項目において差が認められた。次は「家族」であり、「喫煙経験がない」「一ヶ月間喫煙をしていない」「たばこを吸っている人が隣りに来ると場所を移る」「20歳の時喫煙していない」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」「喫煙する姉はいない」の7項目に有意差がみられた。いずれも好ましい状況である者はそうでない者よりセルフエスティーム得点が高かった。

女子では表7に示すように、最も多くの尺度で有意差がみられたのは「喫煙の勧めを断れる」であり、「全般」「友人」「学習」「家族」「身体」の5尺度において、好ましい実践をしている者のセルフエスティームが高いことが認められた。次いで多いのは「20歳の時喫煙していない」「喫煙者は格好悪い」「受動喫煙は感じ悪い」の3項目であり、いずれも「全般」「学習」「家族」

表6. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティーム得点の平均値と標準偏差

		男子	全般	友人	学習	家族	運動	身体
行動	喫煙経験がない		28.2(5.0)	19.6(3.6)	17.0(4.3)*	24.2(3.6)*	17.1(4.8)	20.1(3.2)
	〃 〃 ある		28.6(4.9)	20.0(3.8)	15.7(4.2)	23.2(3.8)	18.2(5.1)	20.2(3.6)
	1ヶ月間喫煙しない		28.2(4.9)	19.6(3.7)	16.9(4.3)**	24.2(3.5)*	17.1(4.8)	20.1(3.2)
	〃 〃 した		26.9(6.7)	20.3(4.1)	14.0(3.4)	21.3(4.7)	19.3(5.8)	19.3(5.8)
	身体に悪いからやめると言った		28.8(5.0)*	20.1(3.6)*	17.5(4.3)**	24.3(3.5)	17.7(4.9)	20.3(3.2)
	〃 〃 言わない		27.9(4.9)	19.4(3.7)	16.4(4.2)	23.9(3.7)	17.0(4.7)	20.0(3.3)
態度	不快だからやめると言った		28.9(5.3)	20.1(3.6)	17.6(4.5)*	24.1(3.8)	17.8(5.1)	20.2(3.6)
	〃 〃 言わない		28.0(4.8)	19.5(3.7)	16.6(4.2)	24.0(3.6)	17.1(4.7)	20.0(3.2)
	隣りに来ると場所を移る		29.0(4.8)**	19.9(3.7)	17.3(4.6)**	24.6(3.5)**	17.3(4.8)	20.4(3.3)*
	〃 〃 移らない		27.5(5.0)	19.3(3.6)	16.4(4.0)	23.5(3.7)	17.3(4.8)	19.7(3.1)
	20歳の時喫煙していない		28.9(5.2)*	19.5(3.6)	17.7(4.5)**	24.6(3.5)**	17.6(4.9)	20.3(3.5)
	〃 〃 している		27.8(4.8)	19.7(3.7)	16.3(4.1)	23.7(3.7)	17.1(5.8)	19.9(3.1)
環境	喫煙者は格好悪い		28.6(4.9)	19.7(3.5)	17.5(4.6)**	24.4(3.4)	17.5(4.9)	20.2(3.4)
	〃 〃 悪くない		28.0(5.0)	19.6(3.8)	16.4(4.1)	23.8(3.7)	17.1(4.7)	20.0(3.2)
	受動喫煙は感じ悪い		28.4(5.1)	19.6(3.6)	17.1(4.4)*	24.4(3.5)**	17.2(4.8)	20.2(3.4)
	〃 〃 悪くない		27.7(4.6)	19.7(3.9)	16.3(4.0)	23.3(3.9)	17.3(4.6)	19.8(3.0)
環境	喫煙の勧めを断れる		28.9(5.0)**	19.8(3.7)	17.5(4.3)**	24.6(3.4)**	17.3(4.7)	20.5(3.3)**
	〃 〃 断れない		26.8(4.5)	19.3(3.6)	15.5(4.0)	22.9(3.8)	17.1(4.9)	19.3(3.1)
	喫煙する父はいない		28.4(5.1)	19.5(3.8)	17.1(4.5)	24.1(3.7)	17.2(4.9)	20.1(3.5)
	〃 〃 いる		28.1(4.9)	19.7(3.6)	16.6(4.2)	24.0(3.5)	17.3(4.6)	20.1(3.0)
	喫煙する母はいない		28.5(4.9)	19.7(3.7)	17.1(4.5)**	24.2(3.6)	17.3(4.8)	20.2(3.3)
	〃 〃 いる		26.7(5.3)	19.3(3.7)	15.2(4.2)	23.3(3.9)	16.7(4.3)	19.5(2.6)
	喫煙する兄はいない		28.3(4.9)	19.6(3.7)	17.0(4.2)**	24.1(3.6)	17.2(4.8)	20.1(3.2)
	〃 〃 いる		27.0(5.7)	19.5(3.9)	14.0(4.4)	22.7(4.0)	18.5(5.0)	19.6(3.8)
	喫煙する姉はいない		28.3(4.9)	19.6(3.7)	16.9(4.3)	24.1(3.5)*	17.2(4.8)	20.1(3.3)
	〃 〃 いる		25.6(3.2)	20.6(2.6)	13.8(3.8)	18.6(5.7)	18.0(6.1)	19.2(2.8)
喫煙する友達はいない		28.3(5.0)	19.6(3.6)	16.9(4.3)	24.1(3.6)	17.3(4.7)	20.1(3.2)	
〃 〃 いる		27.0(4.7)	19.5(4.2)	15.8(5.1)	22.2(4.2)	17.7(5.1)	20.0(4.0)	

t検定：\*\*：P<0.01, \*：P<0.05

表7. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティーム得点の平均値と標準偏差

女子		全般	友人	学習	家族	運動	身体
行動	喫煙経験がない	27.2(5.1)	19.0(3.7)	16.8(3.9)**	24.1(3.9)**	15.3(5.0)	18.5(3.6)
	〃 〃 ある	26.5(5.1)	18.6(4.0)	14.2(3.7)	22.6(2.9)	15.3(4.1)	18.2(3.4)
	1ヶ月間喫煙しない	27.1(5.1)	18.9(3.6)	16.7(3.9)*	24.0(3.9)	15.3(4.9)	18.4(3.6)
	〃 〃 した	23.5(6.2)	21.8(4.1)	10.8(2.5)	23.5(2.1)	17.0(4.7)	18.8(2.9)
	身体に悪いからやめると言った	27.2(5.2)	19.2(3.7)	16.6(3.8)	24.0(4.1)	15.7(5.1)	18.6(3.7)
	〃 〃 言わない	26.9(4.9)	18.7(3.6)	16.7(4.0)	24.0(3.6)	15.0(4.7)	18.3(3.4)
態度	不快だからやめると言った	28.7(4.5)**	19.3(3.7)	17.6(4.0)**	24.1(4.0)	16.0(5.1)	18.9(3.7)
	〃 〃 言わない	26.6(5.2)	18.8(3.7)	16.4(3.8)	24.0(3.8)	15.1(4.8)	18.3(3.5)
	隣りに来ると場所を移る	27.6(5.1)**	19.1(3.6)	16.8(3.8)	24.5(3.7)**	15.6(4.8)	18.8(3.7)*
	〃 〃 移らない	26.3(5.0)	18.7(3.7)	16.4(4.0)	23.3(4.0)	15.0(5.0)	18.0(3.3)
	20歳の時喫煙していない	27.7(5.3)**	19.2(3.8)	17.1(4.1)*	24.6(3.7)**	15.4(4.9)	19.0(3.9)**
	〃 〃 している	26.4(4.8)	18.7(3.6)	16.2(3.7)	23.3(3.9)	15.2(4.9)	17.9(3.2)
環境	喫煙者は格好悪い	27.9(5.2)**	19.1(3.6)	17.5(4.6)**	24.6(3.9)**	15.4(5.0)	18.8(3.4)*
	〃 〃 悪くない	26.4(4.8)	18.8(3.7)	16.2(4.1)	23.4(3.7)	15.2(4.8)	18.1(3.4)
	受動喫煙は感じ悪い	27.5(5.1)**	19.0(3.7)	17.0(3.9)**	24.2(3.9)**	15.3(4.9)	18.7(3.6)**
	〃 〃 悪くない	25.1(4.6)	18.7(3.6)	15.0(3.6)	23.0(3.7)	15.3(4.9)	17.5(3.0)
環境	喫煙の勧めを断れる	27.8(5.0)**	19.1(3.6)*	17.1(3.8)**	24.5(3.7)**	15.4(4.9)	18.8(3.5)**
	〃 〃 断れない	25.0(4.9)	18.3(3.7)	15.5(3.9)	22.5(3.9)	15.1(5.0)	17.6(3.4)
	喫煙する父はいない	27.3(5.0)	18.7(3.7)	17.2(3.9)**	24.2(3.8)	15.4(4.9)	18.7(3.7)
	〃 〃 いる	26.9(5.1)	19.1(3.6)	16.2(3.8)	23.8(3.9)	15.2(4.9)	18.3(3.4)
	喫煙する母はいない	27.1(5.1)	18.9(3.8)	16.8(3.9)*	24.0(3.8)	15.2(4.9)	18.4(3.6)
	〃 〃 いる	26.4(4.9)	19.2(2.9)	15.5(3.8)	23.8(3.5)	15.8(4.5)	18.4(3.2)
環境	喫煙する兄はいない	27.1(5.1)	18.9(3.7)	16.7(3.9)	24.0(3.9)	15.3(4.9)	18.4(3.6)
	〃 〃 いる	26.6(3.9)	18.5(4.1)	15.0(3.2)	23.8(2.3)	15.6(5.8)	18.6(3.8)
	喫煙する姉はいない	27.1(5.1)	18.9(3.7)	16.7(3.9)	24.0(3.8)	15.3(4.9)	18.5(3.6)
	〃 〃 いる	25.5(8.6)	17.0(3.7)	13.8(4.3)	24.3(5.1)	12.0(1.8)	17.0(1.6)
	喫煙する友達はいない	27.1(5.1)	18.9(3.7)	16.7(3.9)	24.0(3.9)	15.2(4.9)	18.5(3.6)
〃 〃 いる	26.7(4.4)	19.6(3.1)	16.2(3.9)	22.6(4.0)	18.9(4.7)*	17.2(2.9)	

t検定：\*\*：P<0.01，\*：P<0.05

「身体」の4尺度において、好ましい状況である者のセルフエスティームが高かった。

また、尺度別にみて最も多く有意差がみられたのは「学習」の9項目であり、それらは「喫煙経験がない」「1ヶ月間喫煙していない」「不快だからやめると言ったことがある」「20歳の時喫煙していない」「喫煙者は格好悪い」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」「喫煙する父はいない」「喫煙する母はいない」の9項目であった。次に多く有意差がみられたのは「全般」と「家族」であった。「全般」においては「不快だからやめると言ったことがある」「たばこを吸っている人が隣りに来たら場所を移る」「20歳の時喫煙していない」「喫煙者は格好悪い」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」であった。一方、「家族」では「喫煙経験がない」「たばこを吸っている人が隣りに来たら場所を移る」「20歳の時喫煙していない」「喫煙者は格好悪い」「受動喫煙は感じ悪い」「喫煙の勧めを断れる」の6項目で有意差がみられた。有意差がみられたいず

れにおいても好ましい状況である者のセルフエスティーム得点が高かった。

### 5. 非喫煙得点からみたセルフエスティーム得点

喫煙に関する行動および態度の9項目について好ましい状況を示す非喫煙得点(0~9点)とセルフエスティーム得点を比較すると、男子では表8に示すように、非喫煙得点の分布は高群146人(27.1%)、中群259人(48.1%)、低群134人(24.8%)であった。高群と中群を比較すると、「全般」「学習」「運動」の3尺度に、高群と低群の間では「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度に、中群と低群の間では「家族」に有意差がみられた。いずれの尺度においても喫煙に関する行動および態度の好ましい状況を示す非喫煙得点が高い者のセルフエスティーム得点が高かった。

女子では表9に示すように、非喫煙得点の分布は高群171人(34.3%)、中群268人(53.8%)、低群59人(11.8%)であった。高群と中群の間では「全般」「家族」

表 8. 非喫煙得点からみたセルフエスティーム得点の平均値と標準偏差

男子	例数	全般	友人	学習	家族	運動	身体
高群(7~9点)	146	29.5(5.1)	20.0(3.3)	18.3(4.6)	24.7(3.6)	18.0(4.9)	20.6(3.4)
中群(4~6点)	259	27.9(4.8)	19.5(3.8)	16.5(4.0)	24.2(3.3)	16.8(4.7)	20.1(3.0)
低群(0~3点)	134	27.5(4.9)	19.6(3.8)	15.8(4.1)	23.0(4.0)	17.4(4.7)	19.6(3.3)
合計	539	28.2(5.0)	19.6(3.7)	16.8(4.3)	24.0(3.6)	17.3(4.8)	20.0(3.3)
群間の比較	高：中 高：低 中：低	P<0.05 P<0.05		P<0.05 P<0.05	P<0.05 P<0.05	P<0.05	P<0.05

男子539名の非喫煙得点の平均値(標準偏差)=5.0(2.1)

表 9. 非喫煙得点からみたセルフエスティーム得点の平均値と標準偏差

女子	例数	全般	友人	学習	家族	運動	身体
高群(7~9点)	171	28.4(4.8)	19.4(3.8)	17.3(4.1)	24.8(3.8)	15.8(4.9)	19.1(3.7)
中群(4~6点)	268	26.9(5.1)	18.7(3.6)	16.7(3.7)	24.0(3.8)	15.0(4.8)	18.3(3.4)
低群(0~3点)	59	24.1(4.6)	18.6(3.5)	14.5(3.7)	21.6(3.3)	15.0(5.2)	17.0(3.1)
合計	498	27.0(5.1)	18.9(3.7)	16.6(3.9)	24.0(3.9)	15.3(4.9)	18.4(3.6)
群間の比較	高：中 高：低 中：低	P<0.05 P<0.05 P<0.05		P<0.05 P<0.05	P<0.05 P<0.05		P<0.05 P<0.05 P<0.05

女子498名の非喫煙得点の平均値(標準偏差)=5.7(1.8)

「身体」の3尺度に、高群と低群の間では「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度に、中群と低群の間では「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度に有意差がみられた。いずれの尺度においても非喫煙得点が高い方がセルフエスティーム得点が高かった。

#### IV. 考 察

本研究における喫煙経験者率は5年生男子13.7%、6年生男子17.0%、5年生女子6.3%、6年生女子8.9%であった。JKYB<sup>19)</sup>の調査によれば、5年生男子13%、6年生男子22%、5年生女子5%、6年生女子9%であり、本調査結果とほぼ一致する。性別で喫煙経験率を比較すると男子の方が女子より多かった。このことは、川畑<sup>20)</sup>も指摘しており、わが国の喫煙行動の特徴だとしている。中学校学習指導要領<sup>21)</sup>では、喫煙と健康に関する教育は中学校3年生で取り上げられているが、今回の調査結果やJKYB<sup>19)</sup>の調査をみると、小学校高学年ですでに10%を超える児童が喫煙を経験している。著者ら<sup>22)</sup>は一度でもたばこを口にすると将来の喫煙の可能性が増すこと、さらに小学校低学年の喫煙防止教育は十分可能であると指摘<sup>23)</sup>していることから、喫煙経験者が多くなる中学生からではなく、小学校低学年からの指導が望まれる。

今回の調査結果では、喫煙に関する行動や態度においては女子の方が多くの項目で好ましい状況であることが分かった。喫煙に関する行動・態度を喫煙未経験

者と経験者で比較すると、男女ともに「一ヶ月間の喫煙状況」「20歳の喫煙意思」「受動喫煙の反応」「喫煙の勧誘に対する断り」の4項目において、喫煙未経験の方が好ましい状況であった。著者ら<sup>22)</sup>は先に喫煙経験や将来喫煙する意思のある者に喫煙に対して好意的イメージを持っている者が多かったことを報告しており、喫煙防止教育を行うに当たって喫煙に対して好意的なイメージを低下させる必要がある。

JKYB<sup>20)</sup>の喫煙行動に関する研究によれば、わが国の青少年の場合、周囲の人々の喫煙行動の影響が大きいことが確かめられており、両親共に喫煙者である高校生の喫煙率は両親共に非喫煙者である高校生の約2倍となっている。また、喫煙する兄弟の数が2人以上では男子の59%、女子の32%が喫煙しており、喫煙する兄弟がいない場合の約3~4倍となっている。友人の影響は最も大きく、喫煙する友人がいない高校生の喫煙者率は男子5%、女子2%に過ぎないが、喫煙する友人が2人以上いる高校生の喫煙者率は男子50%、女子46%に達すると報告している。同調査<sup>20)</sup>によれば、小学校の段階では両親の影響が強く、年齢が進むにつれて兄弟や友人の影響が強くなることを明らかにしている。本研究においても「母親が喫煙している」「同性の兄弟が喫煙している」「喫煙する友達がいる」は喫煙経験者の方が多かった。川畑<sup>20)</sup>は、社会学習理論によれば人は自分にとって重要な人物の行動を観察しそれを真似ようとする。もし、青少年の周囲に喫煙する人々

が多かったり、たばこの宣伝・広告や、テレビ番組に登場する魅力的な人物がたばこを吸っていたとしたら、青少年はそれを見てたばこを吸うことは社会的に容認された行動であると考えただけではなく、自分がそうした魅力的な人物になるためにはたばこを吸う必要があると考えるようになるだろうと報告している。このことより、小学生に対する喫煙防止教育の効果を上げるためには、学校だけでなく家庭を含む社会のいくつかの場面で喫煙防止対策を推進させていくことが大切である。

セルフエスティームの測定には、「全般」「友人」「学習」「運動」「身体」「家族」の6尺度を用いた。「全般」「友人」「運動」「身体」においては性差が認められ、男子の方が有意に高かった。小・中学生のセルフエスティームを調べた川畑<sup>10)~12)</sup>も全般的に男子のセルフエスティームが高いことを指摘している。今回の調査結果では学校別、学年別にはセルフエスティーム得点に有意差はみられなかった。「全般」「友人」「学習」「運動」「身体」「家族」の各セルフエスティーム尺度間ではすべてに相関関係が認められた。

喫煙の行動・態度とセルフエスティームとの関連では男女とも「全般」「学習」「家族」「身体」の尺度において、行動・態度が好ましい状況である者とそうでない者のセルフエスティーム得点に差がみられ、好ましい状況である者の方のセルフエスティーム得点が高かった。特に「学習」の尺度では、多くの項目において差がみられた。喫煙に関する14項目のうち男子では11項目に、女子では9項目において喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の者のセルフエスティームが高いことが分かった。

「友人」の尺度に関しては、男子の「身体に悪いからやめてと言ったことがある」と女子の「喫煙の勧めを断れる」とする者のセルフエスティーム得点が高かったが、それ以外では関連が認められなかった。Emery<sup>24)</sup>らは、セルフエスティームの「友人」の尺度は喫煙行動との関係が認められないという理由で使用していない。川畑は<sup>10)</sup>、仮説的には喫煙者は自分と同様の行動をとる仲間集団に加わることによって、あるいは喫煙の勧めを受け入れて、そうした仲間集団にはいることによって、彼らなりに「友人」に関するセルフエスティームのレベルが保たれるので、喫煙行動と「友人」のセルフエスティームレベルとの間に明確な傾向が認められないとしている。今回の結果も同様の理由から「友人」の尺度と喫煙に関する行動や態度の各項目との間に差がみられなかったと考える。

「運動」の尺度に関しては、女子では「喫煙する友達がいる」者と「いない」者でセルフエスティーム得点に差がみられ、友達がいるとした者のセルフエスティームが高かった。川畑<sup>10)</sup>は、小・中学生のセルフエスティームは「運動」の尺度に関しては喫煙経験者の

方が喫煙未経験者よりも高い傾向にあったと報告している。この「運動」の尺度に関連して、川畑<sup>10)</sup>の結果と今回の結果の共通点は、喫煙に関する行動・態度が好ましくない者のセルフエスティーム得点が高かったことであり、他の尺度と逆転していることである。詳細については今後追究する必要がある。

非喫煙得点からみたセルフエスティーム得点は男女とも「全般」「学習」「家族」「身体」に関して、高群と低群の間で有意差がみられ、非喫煙得点が高い者ほど、セルフエスティーム得点が高かったが、「友人」に関しては群間に有意差はみられなかった。

本研究では、喫煙に関する行動・態度の項目の多くで、それぞれ好ましい状況である者の方がそうではない者よりセルフエスティームが高かった。また、非喫煙得点が高い者は「全般」「学習」「家族」「身体」の尺度のセルフエスティーム得点が高かった。これらのことから喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連は大きく、青少年の喫煙対策には子どもたちをより多くの好ましい喫煙行動・態度・環境で生活させるとともに、セルフエスティームを高める教育を同時に実践することが重要であることが窺える。セルフエスティームを高めるには学業達成や社会的役割遂行などの成功経験を与え、精神的、感情的自己概念などを形成させるような機会を工夫するような教育指導が必要であること<sup>25)</sup>が指摘されており、これらの目的達成のためには保健教育、保健指導の場だけでなく、学校教育の多くの場面さらに家庭においても同時に実施されることが好ましい。

## V. 要 約

小学校5・6年生1037名(男子539名,女子498名)を対象に、喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連を追究し、以下に示す結果を得た。

(1) 喫煙に関する行動・態度を性別に比較すると、「不快だからやめてと言ったことがある」を除いた8項目すべてに有意差が認められ、いずれも女子の方が好ましかった。

(2) 喫煙に関する行動・態度・環境を喫煙経験別に比較すると、男子では14項目中9項目において、また、女子では7項目において喫煙経験者より未経験者の方が好ましい行動・態度が多かった。

(3) 喫煙に関する行動・態度・環境の14項目とセルフエスティーム6尺度とは、多くの項目と尺度間に関連がみられ、その中で最も多く有意差がみられたのは、男子では「たばこを吸う人が隣りに来たらその場を移る」と「喫煙の勧めを断れる」の2項目であり、ともに「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度において、好ましい状況である者のセルフエスティーム得点が高かった。女子では「喫煙の勧めを断れる」の1項目であり、「全般」「友人」「学習」「家族」「身体」の5尺度



において、好ましい状況である者のセルフエスティーム得点が高かった。

(4) 非喫煙得点別にセルフエスティームを比較すると、男子では喫煙の行動・態度について好ましい状況であることを示す高群と好ましくない状況を示す低群では「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度において、高群と中群の間では「全般」「学習」「運動」の3尺度において、中群と低群の間では「家族」においてそれぞれ非喫煙得点が高い群ほどセルフエスティーム得点が高かった。女子の高群と中群の間では「全般」「家族」「身体」の3尺度において、高群と低群および中群と低群の間ではいずれも「全般」「学習」「家族」「身体」の4尺度において非喫煙得点が高い群ほどセルフエスティーム得点が高かった。

以上のことより、喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームの関連は大きく、喫煙に関する行動・態度・環境が好ましい状況である者ほどセルフエスティーム得点が高い。子どもの将来の非喫煙を考える場合、両親、友人等の周囲の非喫煙環境の拡大とセルフエスティームの向上が極めて大切であることが示唆された。

本研究の一部は、平成11年度文部省科学研究費補助金(基盤研究C(2)課題番号11680184代表村松常司)により実施した。

#### ＜参考文献＞

- 1) 川畑徹朗, 他(1991): 青少年の喫煙・飲酒行動, Japan Know Your Bodyの結果より, 日本公衆衛生雑誌, 38(12), 885-899
- 2) 尾崎米厚, 他(1993): わが国の中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率, 日本公衆衛生雑誌, 40(1), 39-48
- 3) 村松常司, 他(1994): 小・中学生の日常生活習慣の知識, 態度, 行動に関する研究, 愛知教育大学研究報告, 第43輯, 95-108
- 4) 厚生省(1993): 喫煙と健康, 喫煙と健康問題に関する報告書, 第2版, 保健同人社, 47-75, 東京
- 5) 飯塚雄一(1987): 自尊心, 社会心理学用語辞典, 北大路書房, 98
- 6) 川畑徹朗(1994): 健康的なライフスタイル形成への動機づけ, 学校健康教育とライフスキル, Know Your Bodyプログラム日本語版の開発, JKYB研究会編, 19-26, 亀田ブックサービス
- 7) ドナ・クロス(1996): 学校教育におけるライフスキルの形成, 確かなものか, 不確実なものか, 学校保健研究, 38(1), 5-9
- 8) 川畑徹朗(1996): セルフエスティーム(自尊心)を育てる, 初等教育資料, No.647, 68-71
- 9) 植田誠治(1996): 思春期のセルフエスティームと喫煙・飲酒・薬物使用ならびに将来の喫煙・飲酒・薬物使用意思との関連, 学校保健研究, 38(5), 460-472
- 10) 川畑徹朗, 他(1998): 小・中学生の喫煙行動とセルフエスティームの関係, 日本公衆衛生雑誌, 45(1), 15-25
- 11) 川畑徹朗, 他(1997): ライフスキルと生活習慣に関する縦断的研究, セルフエスティームと生活習慣, 学校保健研究, 39(Suppl), 274-275
- 12) 川畑徹朗, 他(1998): ライフスキルと生活習慣に関する縦断的研究, 初年度版と第2年度の調査の比較を中心として, 学校保健研究, 40(Suppl) 238-239
- 13) Rosenberg, M. (1965): Society and Adolescent Self-Image, Princeton University Press, Princeton
- 14) 松下覚(1969): Self-imageの研究, Self-esteem scaleの作成, 日本心理学会, 第11回総会発表論文集, 11(Supple), 280-281
- 15) 桜井茂男(1983): 認知されたコンピテンス測定尺度(日本語版)の作成, 教育心理学研究, 31(3), 245-249
- 16) Harter, S. (1982): The Perceived Competence Scale for Children, Child Development, 53, 87-97
- 17) 佐藤容子(1992): このマニュアルの使い方, 治療プログラムの開発に当たって背景となった理論的, 経験的モデル, 自尊心の発達と認知行動療法, 子どもの自信・自立・自主性をたかめる, 高山巖監訳, 39-52, 207-214
- 18) 佐藤正二(1992): 自尊心とは, 治療プログラムの開発に当たって背景となった理論的, 経験的モデル, 自尊心の発達と認知行動療法, 子どもの自信・自立・自主性をたかめる, 高山巖監訳, 1-8
- 19) 川畑徹朗(1995): 地域と連携した小学校高学年からの喫煙防止プログラム NICEII, JKYB研究会編, 8-10, 大修館書店, 東京
- 20) 川畑徹朗(1996): 喫煙防止教育, 健康教育とライフスキル学習理論と方法, JKYB研究会編, 29-71, 明治図書, 東京
- 21) 文部省(1989): 中学校指導要領, 大蔵省印刷局, 76-84
- 22) 村松常司, 他(1993): 喫煙習慣からみた青少年のPassive Smokingに対する反応ならびに自覚症状に関する研究, 愛知教育大学研究報告, 第42輯, 99-112
- 23) 村松常司, 他(1988): 小学校2年生への喫煙防止教育の試み, 日本公衆衛生雑誌, 35(4), 193-199
- 24) Emery E. M., et al (1993): The Relationship between Youth Substance Use and Area-Specific Self-Esteem, Journal of School Health, 63(5), 224-228
- 25) 蘭千壽(1992): セルフエスティームの姿容と教育指導, セルフエスティームの心理学, 自己価値の探求, 遠藤辰雄編, 200-226, ナカニシヤ出版, 京都

(平成11年9月9日受理)